

第3回原子力災害時のスクリーニング作業の実際について（実践講習会）開催報告

神奈川県放射線管理士部会

横須賀三浦放射線技師会原子力災害特別派遣チーム

横須賀北部共済病院 濱田順爾

平成19年11月24日（土）横須賀共済病院に於いて、横須賀三浦放射線技師会原子力災害特別派遣チーム（NASチーム）主催、神奈川県放射線管理士部会、神奈川県放射線技師会災害対策委員会共催という形で、標記講習会を開催し、私自身も司会という立場でスタッフとして参加することができましたのでその概要を報告いたします。

この講習会は、実際に想定される原子力災害時に我々診療放射線技師に求められる知識や技術を、放射線の専門家である我々自らの手で習得しようという目的で毎年開催しており、今後ともこのような講習会を繰り返し開催していくことで、サーベイメータの使用方法や避難所における除染作業を実際的に習得する機会を広く提供していきたいと考えております。今回は初年度開催より4年目となりますが、昨年は横須賀市内にある核燃料成型工場（GNF-J）見学会に変更して開催いたしましたので第3回ということになりました。当日は開催スタッフを含め21名参加の小規模な講習会となりましたが、神奈川の一地区開催としては、まずまずの内容であったと考えております。以下にプログラムを示します。

プログラム

1. NAS チーム代表挨拶 宮村聖也（横須賀市立市民病院、NAS チーム、県災害対策委員会）
2. GNF - J への対応について 講師：沼田恭一（横須賀共済病院、NAS チーム）
3. サーベイメータの取扱方法 講師：大石小太郎（横須賀共済病院、NAS チーム）
4. 原子力災害時のスクリーニングマニュアルについて
～救護所 & 避難所における放射線技師の役割～
講師：吉田 篤史（川崎市立多摩病院、県管理士部会、県災害対策委員会）
5. 実践演習（避難所を想定。サーベイメータの基礎、サーベイメータでのスクリーニングの方法について実習）

次に、講習会の概要や今後の課題等について報告いたします。

「GNF - J への対応について」の講義中で、核燃料成型工場であるこの施設が原子力災害の発生源と仮定した場合、放射線による汚染よりもウランの重金属毒性の方が深刻となる場合が考えられ、その方策を今後検討していく必要性がある旨の問題提起がありました。

「サーベイメータの取扱方法」の講義では、参加者中のサーベイメータ初心者にも優しい講義を心がけました。

また、「原子力災害時のスクリーニングマニュアルについて」の講義は、このほど神奈川県放射線技師会災害対策委員会が作成した、原子力災害対策マニュアルを初めて教材と

して使用した講義であり、この作成に関わった側としてもよい検証が出来たと思えました。

最後の実践演習では、スタッフが避難住民に扮し、実際の災害時に着用するタイベックスーツを着た受講者が、避難住民が隠し持った模擬線源を3分以内に探すという形式で行いました。この時、各受講者にはモデレータとして別のスタッフが付き、スクリーニングの方法を指導、加えて汚染部位発見の誘導を行うようにしました。いつものことながら、3分という短い時間でスクリーニングを行うことの難しさや、重装備での作業の難しさが受講者にも伝わったことと**思います**。

以上、講習会開催の概要を報告しましたが、総じて参加者からは好評を得ることができた一方で、協力関係を結び同様の趣旨で開催している神奈川県放射線管理士部会**単独開催**の講習会と開催時期が接近しており、さらに双方のスタッフも重複しているため、それぞれの独自性を検討する必要があるのではないか、という**主催者側**の問題点も明らかになりました。ともあれ、横須賀三浦地区や神奈川県の放射線管理士だけでなく、全国から診療放射線技師が参加し、貴重な経験を積むとともに、我々が必要とされている知識や技術を習得できる機会を、今後とも提供していきたいと考える次第で**あります**。

